

本年の黒星病は、生産者の皆様の精力的な対策の実施によって、発生は極少となりました。

しかし、8月後半の多雨の影響により徒長枝等の葉に黒星病秋型病斑の発生が見られ始めています。

今後、①徒長枝等の葉の病斑から降雨により芽に黒星病菌胞子が侵入し翌春の芽基部病斑に、②落葉の放置は、翌春の地表面からの黒星病菌胞子飛散の原因になります。

来年の黒星病の発生を防ぐためにも、秋季防除や落葉処理を徹底して下さい。



黒星病秋型病斑 (薄墨色の黒い斑点)

1 秋季防除は必ず3回実施して下さい!

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象 病害虫	防除 実施日
19	10月21~ 23日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
20	10月31~ 11月2日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
21	11月10~ 12日頃 80%落葉後	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	

※「新興」など収穫中の品種に飛散した場合、3日(72時間)収穫できませんので注意して下さい。

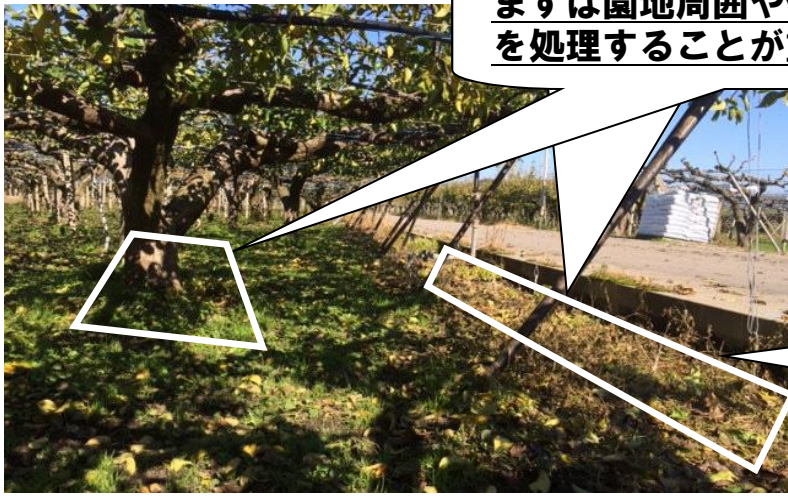
2 本年も必ず落葉処理を実施して下さい!!

- 本年は、黒星病の発生は少い状況でしたが、落葉処理を省略してよいわけではありません。
- 8~9月の降雨により徒長枝等に黒星病秋型病斑が発生していることから、落葉の放置は翌春の胞子飛散リスクの高まりに繋がります。
- 精度の高い落葉処理を実施して、黒星病菌の越冬を防止しましょう!!

(1) 実施時期：11月中下旬(落葉後)~2月末

(2) 落葉処理の方法

- ①落葉処理の精度が低いと十分な効果を得ることができません。
- ②園地周囲や幹元の葉は、松葉ぼうき等で集めて処分する他、園地内部でモアやロータリー等を使用する場合は、低速で走行する等丁寧に葉を粉砕し、すきこんで下さい。



まずは園地周囲や側溝、幹元の落葉を処理することが重要です。



【処理機械別の機械速度、処理時間（目安）】

処理機械	機械速度、処理時間等
乗用モア	2回処理（1回につき10aを45分で）
ロータリー	1 km/h以下の速度で、10aを60分以上かける
乗用モアとロータリーの併用	<ul style="list-style-type: none"> モア：10aを30分かける ロータリー：1.5～2 km/hの速度で10aを45～60分かける

※落葉処理の未実施あるいは処理精度の低い園地は、隣接園地（他の生産者）にも被害を及ぼす可能性があります（産地全体での取り組みが重要です）。

(3) 落葉処理の留意点

- ①雑草が繁茂している場合は、落葉をかき集めやすくするため、あらかじめ草刈りや除草剤散布等をしておきましょう。
- ②葉の原形が地表面に残ったままだと、病原菌が越冬します。機械による粉碎や耕起は十分に行なって下さい。
- ③チップー等で粉碎したせん定枝を園内に放置しても、黒星病の発生には影響しないとされています。ただし、粉碎後に落葉と一緒にロータリー等で耕起し、すき込むと土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させるので、注意して下さい。

☆10月19日(土)午後1時30分から開催の「黒星病対策研修会」に是非参加願います！！